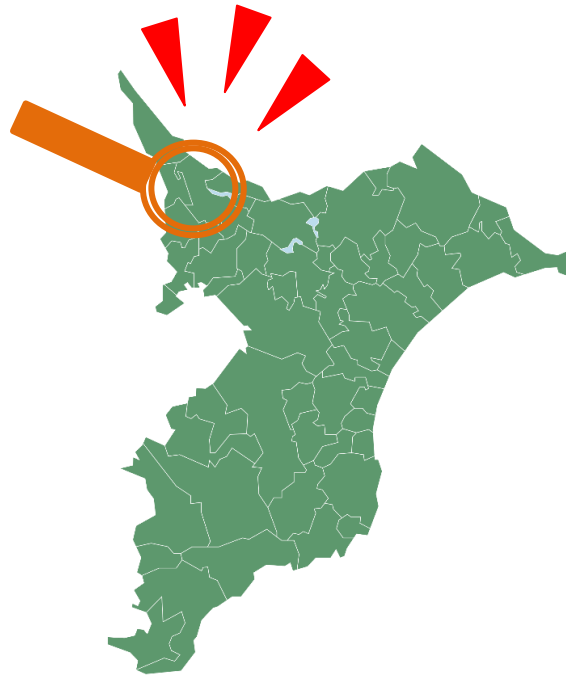


2024・1

柏の景気情報

令和6（2024）年1月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和6年1月の調査結果のポイント)

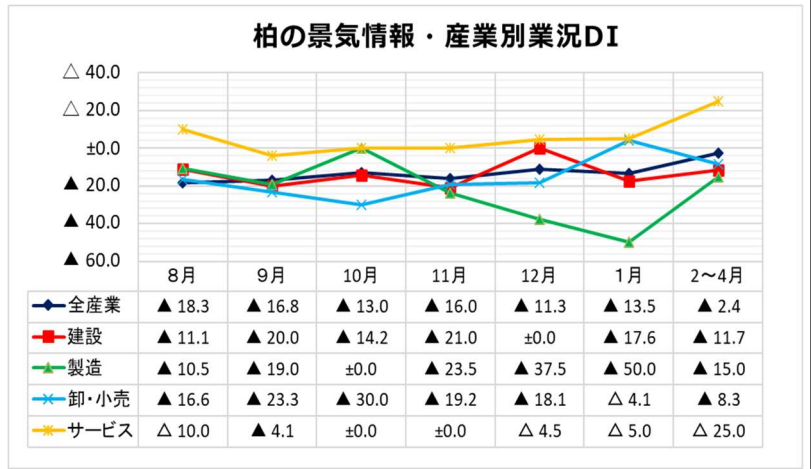
★調査結果のまとめ

回答期間：令和6年1月25日～令和6年2月4日 調査対象：柏市内181業所及び組合にヒアリング、回答数81

中小が大手と対等に価格交渉するのは $\text{\textcircled{X}}$ 、仕入価格上昇で収益が圧迫し賃上げに振る向ける原資がない

1月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲13.5（前月水準▲11.3）となりマイナス幅が2.2ポイント拡大した。

物価高や賃上げによるコスト負担増は、業種を問わず継続。適正な価格転嫁への対応や深刻な人手不足など、長期化している経営課題は多く、建設や製造業の業況は悪化となった。消費者の買い控えは長期化しているものの、初売りや新年会の特需により卸・小売とサービス業はプラスに推移した。能登半島地震の発生に伴い、企業活動に影響が出ている・今度出てくる可能性があるといったコメントも寄せられた。



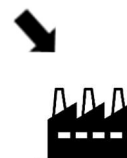
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「職人不足は継続。それ以外にも全体的な人手不足で、営業活動が十分にできず収益が伸び悩んでいる」（電気工事） 「物価の上昇に加え、働き方改革に伴う人手不足が影響している」（管工事） 「原材料は高騰しているのに価格転嫁が出来ていないので、業況が悪化」（畳工事請負・畳製造販売）



製造業

「製造量増加による新規採用も徐々に進んできている。4月に値上げがある為「仮需」が入ってきている」（酒類製造） 「昨年同月期はコロナ後の影響で医療品容器の特需があったが、今年は落ち着いたことで売上減」（プラスチック加工） 「このままだと厳しく緊急措置が必要」（油脂加工） 「大手からの材料高騰による一方的な値上げ交渉は受け入れざるを得ない。しかし部品製造の下請け企業は、製品価格の引き上げがないと原資がない」（金属製品製造） 「半導体関連の受注は低迷、自動車関連は好調するも物価高や材料高騰を背景に利益を圧迫。人材とDX投資で新製品開発や新規得意先を開拓するチャンスだと考える」（金属素形材製品製造）



卸・小売業

『ハレの日』ニーズのレンタル衣料苦戦続くも、セール需要中心にアパレル回復傾向。食物販・サービス関連は好調継続（百貨店） 「年始は大型店に人が流出の傾向が見られた。地震の影響から防災用品が好調。節約志向は引き続いており、価格強調品への反応が顕著に見られる」（大型小売店） 「インボイスの対応で本業に支障をきたしそうなほど体力がかなり奪われている」（包装資材機器卸）



サービス業

「顧客からの問い合わせが減少。建築費の高騰や人件費、材料費の価格上昇により、販売価格の値上げでお客様の財布のひもが厳しくなっている。今後の見通しもかなり厳しい状況と予測」（不動産管理） 「駅周辺は人出が増えており飲食店なども予約が必須な一方で、閉店する店舗もあり消費者の選別が厳しいと感じられる」（コンサルタント） 「賃金の引き上げを行ったが、補助金が出る期間外に行っており愕然とした。中小企業が利用できる支援制度については、商工会議所会員にはもっと周知を徹底してほしい」（学習塾）

★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI-LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲13.5に対し、「CCI-LOBO」が▲11.4で、柏のほうがマイナス幅が2.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は卸小売、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設、製造業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 13.5	 ▲ 17.6	 ▲ 50.0	 4.1	 5.0
CCI-LOBO	 ▲ 11.4	 ▲ 12.3	 ▲ 13.4	 ▲ 10.4	 ▲ 5.2
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 14.8	 ▲ 17.6	 ▲ 50.0	 4.1	 ±0.0
CCI-LOBO	 0.1	 ▲ 6.1	 ▲ 1.8	 ▲ 7.0	 10.3
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 23.4	 ▲ 17.6	 ▲ 50.0	 ▲ 8.3	 ▲ 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 13.3	 ▲ 18.8	 ▲ 13.8	 ▲ 14.7	 ▲ 7.6
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 64.1	 ▲ 23.5	 ▲ 80.0	 ▲ 75.0	 ▲ 70.0
CCI-LOBO	 ▲ 59.6	 ▲ 68.0	 ▲ 49.9	 ▲ 64.9	 ▲ 61.4
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 17.2	 23.5	 25.0	 12.5	 10.0
CCI-LOBO	 22.5	 33.3	 14.5	 20.9	 27.2
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 4.9	 ▲ 5.8	 ▲ 15.0	 ▲ 4.1	 5.0
CCI-LOBO	 ▲ 11.0	 ▲ 7.1	 ▲ 10.0	 ▲ 16.9	 ▲ 11.5

CCI-LOBO

商工会議所早期景気観測(1月速報)

調査期間：2024年1月16日～22日

調査対象：全国の326商工会議所が2,451企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、人手不足や物価高等で力強さ欠き、悪化

先行きは、国内需要の停滞懸念とコスト増で厳しい見方

1月の全産業合計の業況DIは、▲11.4と前月比から▲3.0ポイントの改善。

小売業は、5類移行後初めての年始を迎え、初売り等の需要がけん引し、改善した。

一方、サービス業は、新年会需要は堅調なもの、深刻な人手不足で需要に対応が追い付かず悪化した。また、卸売業は、買い控えによる日用品・食品関係の引き合い低迷で悪化し、製造業は、食品関係の受注減や、自動車関係の一部生産停滞で悪化した。建設業も住宅関係の民間工事を中心に弱含んでいる。物価高や賃上げによるコスト増、深刻な人手不足、価格転嫁対応など、長期化し

ている経営課題は多い。加えて、元日に発生した能登半島地震による物流やサプライチェーンへの影響も重なり、中小企業の業況は悪化となった。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、小売業は改善し、建設業と製造業とサービス業は悪化した。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】
「4月から始まる働き方改革関連法の施行に向けて、週休2日制の導入・残業時間の削減に向けて取組みを始めた。法令順守に向けて、業界だけでなく取引先を含めた社会全体で、適正な工期や受発注金額の設定への理解が促進されることを求める」
（土木工事業）

【建設業】

「技術者を中心に人材不足が深刻なため、人材確保に向けて新たに福利厚生制度を創設し、職場環境の改善に

努めている」(とび大工工事業)

【製造業】

「元日に発生した能登半島地震において取引先が被災したため、受注・生産に影響が出ている。また、自動車関係部品の製造を行っているが、先の大手中自動車会社の生産停止による影響も先が見通せず、年明けから事業計画の変更を余儀なくされるスタートになった」(工業用プラスチック製品製造業)

「物価高の影響で既存事業における取引先からの発注が想定より減少。本年は事業再構築補助金を活用し、新事業へ取組む予定である」(水産食料品製造業)

「取引先である小売店において客足・購入品数の減少が著しく、当社への引き合いも減少しており、売上が上がらない。このような中で、運送費や包装資材等のコストは増加しており、採算も取れない状

【卸売業】

況である」(衣服・日用品卸売業)

「物価高の中、従業員の離職防止のために賃上げを行いたいと思っているが、コスト負担が重荷となり、原資が確保できない」(一般機械器具卸売業)

【小売業】

「5類移行後初めての年始に加え、例年よりも気温が高かったこともあり、人流が多く、初売りの売上も好調であった。年始を過ぎると閑散期に入りますが、付加価値商品の開発等で売上を堅持していくとともに、人手不足にならないよう、価格転嫁による賃上げの原資確保を進めたい」(百貨店)

「原材料やエネルギー価格の上昇に対して価格転嫁を行いたいのが、消費者離れを危惧して取組みを躊躇している」(物産品小売業)

【サービス業】

「5類移行後初めての新年で、新年会需要が堅調に推移した。また、インバウンド需要回復の恩恵もあり予約も好調。し

かし、予約の無断キャンセルなど新たな課題も発生しているため、事前決裁システムを導入し、安心できる受け入れ態勢を構築していく」(飲食業)

全国・産業別業況DIの推移

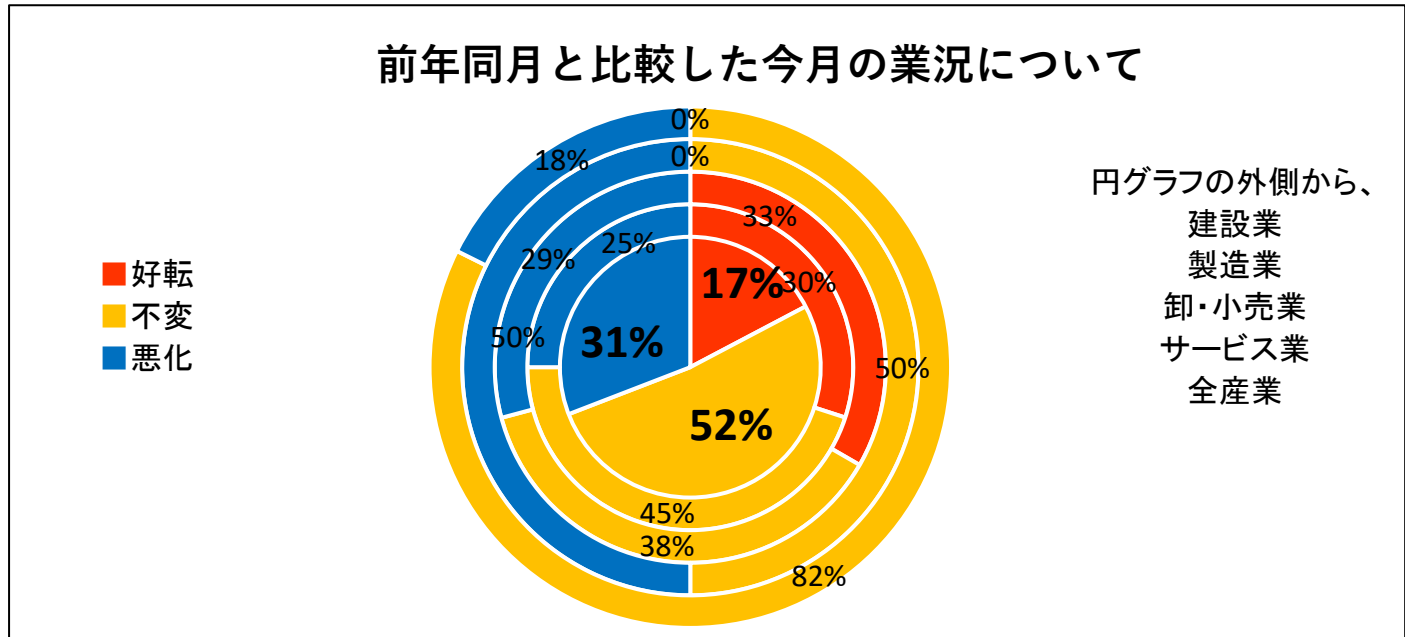
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
8月	▲ 8.9	▲ 18.8	▲ 5.6	▲ 22.6	▲ 12.7	△ 3.4
9月	▲ 9.0	▲ 16.5	▲ 8.5	▲ 19.7	▲ 9.2	△ 0.2
10月	▲ 10.5	▲ 14.3	▲ 9.3	▲ 20.6	▲ 16.0	△ 0.0
11月	▲ 9.7	▲ 11.7	▲ 10.2	▲ 12.0	▲ 18.7	△ 0.2
12月	▲ 8.4	▲ 11.0	▲ 8.1	▲ 6.9	▲ 20.8	△ 2.4
1月	▲ 11.4	▲ 12.3	▲ 13.4	▲ 10.4	▲ 16.2	▲ 5.2
見通し	▲ 13.8	▲ 15.5	▲ 13.8	▲ 18.6	▲ 14.7	▲ 9.7

令和6年（2024年）1月の動向

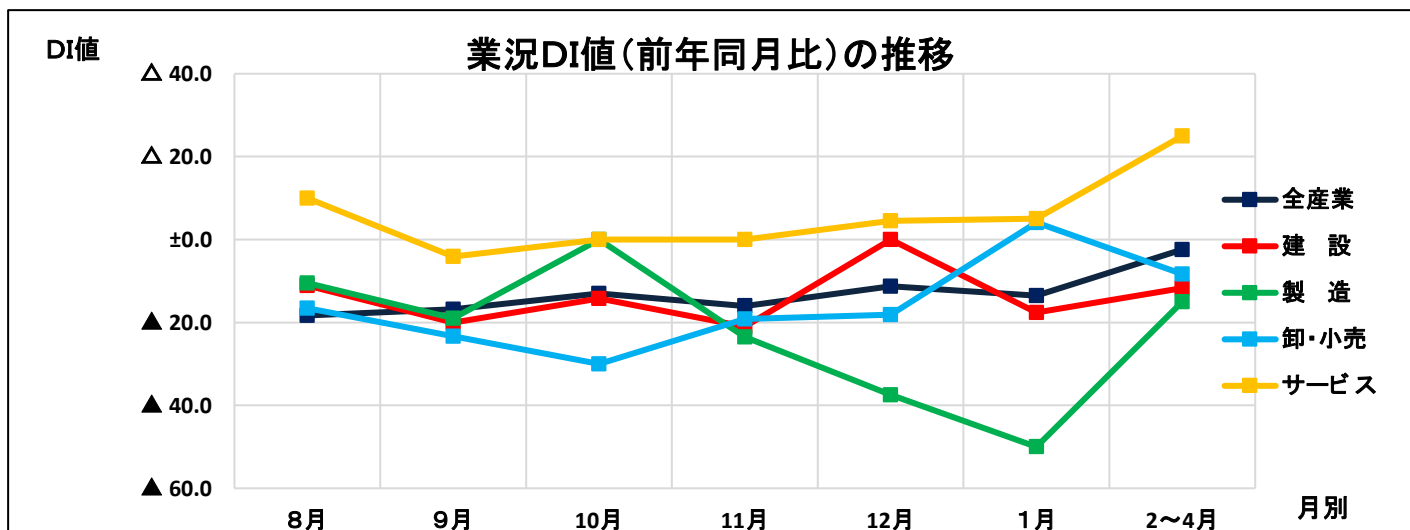
【業況について】

- 1月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲13.5（前月水準▲11.3）となり、マイナス幅が2.2ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月（2月から4月）の先行き見通しについては、全産業では、▲2.4（前月水準▲15.1）となり、マイナス幅が12.7ポイント縮小した。



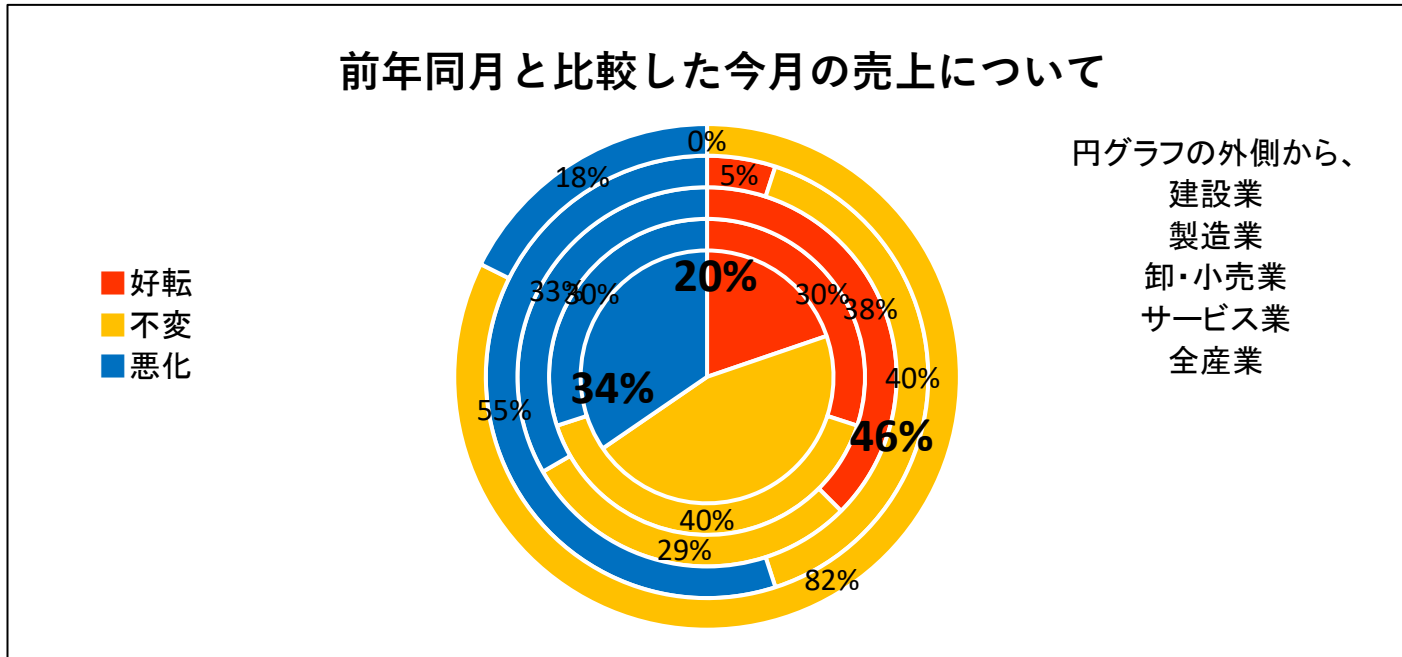
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和5年					令和6年	先行き見通し
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2~4月 (1~3月)
全産業	▲18.3	▲16.8	▲13.0	▲16.0	▲11.3	▲13.5	▲2.4 (▲15.1)
建設	▲11.1	▲20.0	▲14.2	▲21.0	±0.0	▲17.6	▲11.7 (▲21.0)
製造	▲10.5	▲19.0	±0.0	▲23.5	▲37.5	▲50.0	▲15.0 (▲12.5)
卸・小売	▲16.6	▲23.3	▲30.0	▲19.2	▲18.1	△4.1	▲8.3 (▲27.2)
サービス	△10.0	▲4.1	±0.0	±0.0	△4.5	△5.0	△25.0 (±0.0)



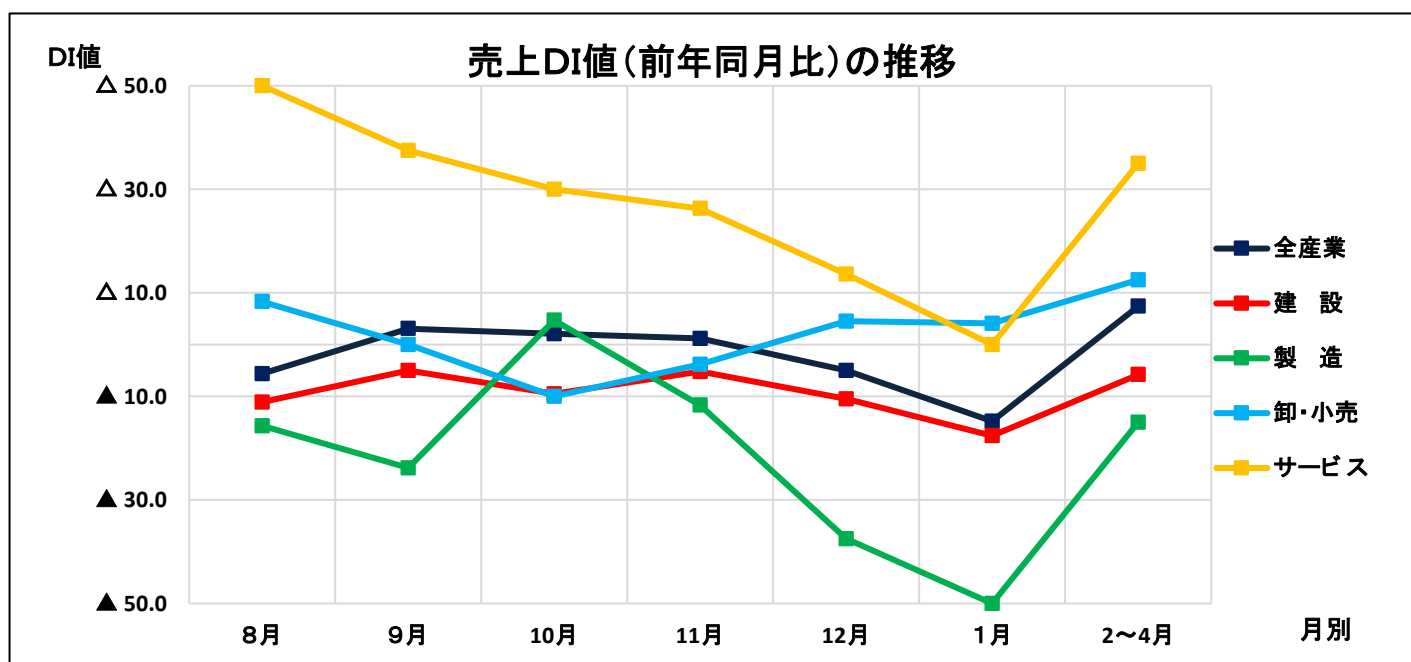
【売上について】

- 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.8(前月水準▲5.0)となり、マイナス幅が9.8ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、△7.4(前月水準▲10.1)となり、プラス幅が17.5ポイント拡大した。



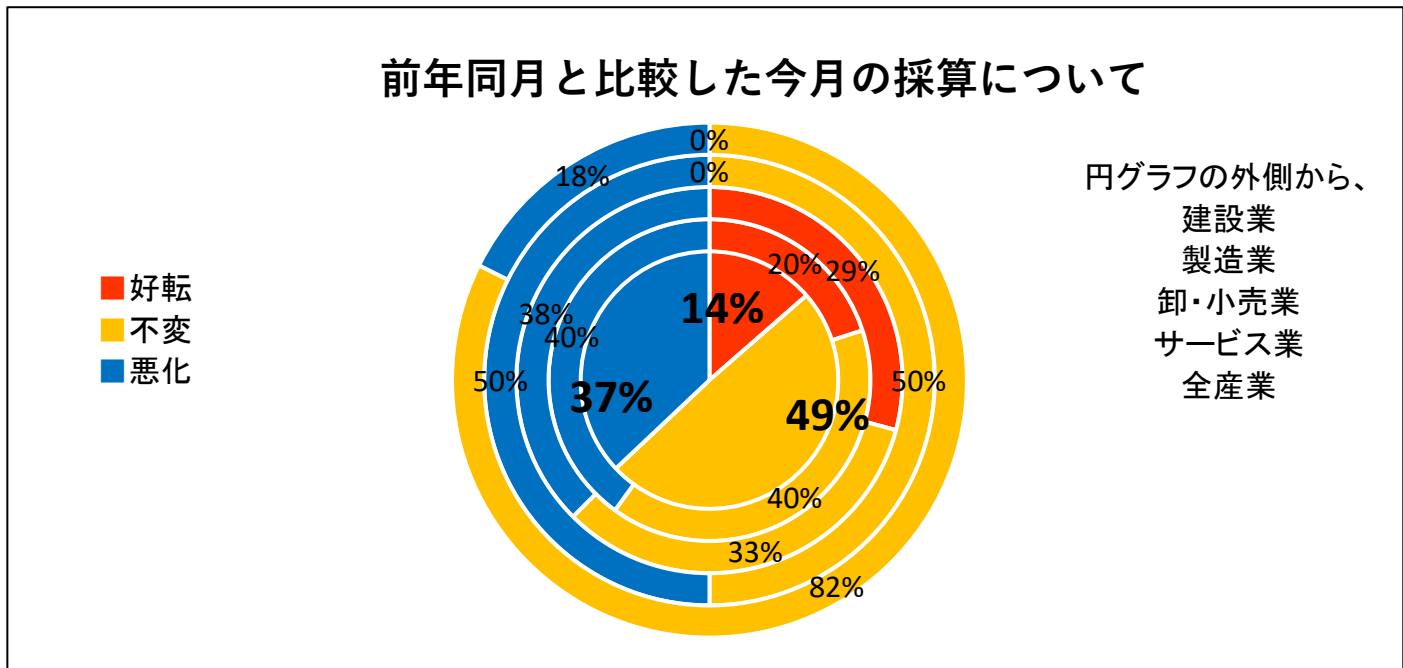
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和5年					令和6年	先行き見通し
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2~4月 (1~3月)
全産業	▲5.6	△3.1	△2.1	△1.2	▲5.0	▲14.8	△7.4 (▲10.1)
建設	▲11.1	▲5.0	▲9.5	▲5.2	▲10.5	▲17.6	▲5.8 (▲10.5)
製造	▲15.7	▲23.8	△4.7	▲11.7	▲37.5	▲50.0	▲15.0 (▲12.5)
卸・小売	△8.3	±0.0	▲10.0	▲3.8	△4.5	△4.1	△12.5 (▲18.1)
サービス	△50.0	△37.5	△30.0	△26.3	△13.6	±0.0	△35.0 (±0.0)



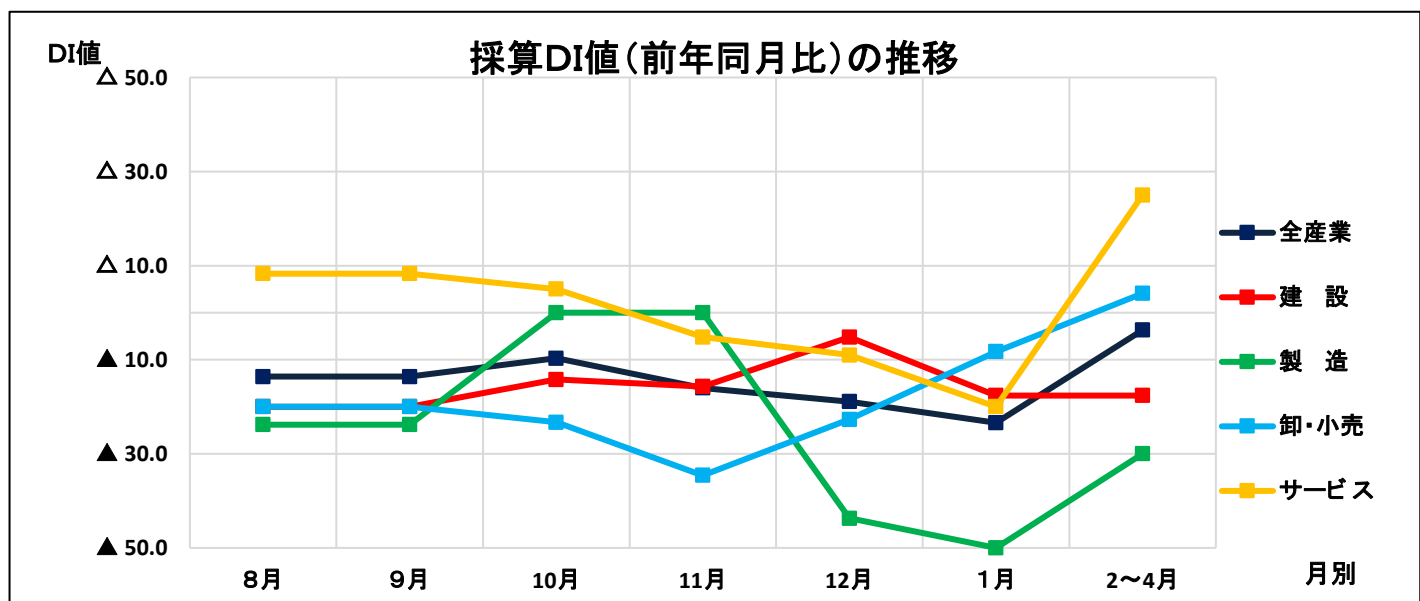
【採算について】

- 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.4(前月水準▲18.9)となり、マイナス幅が4.5ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲3.7(前月水準▲16.4)であり、マイナス幅が12.7ポイント縮小する見通しである。



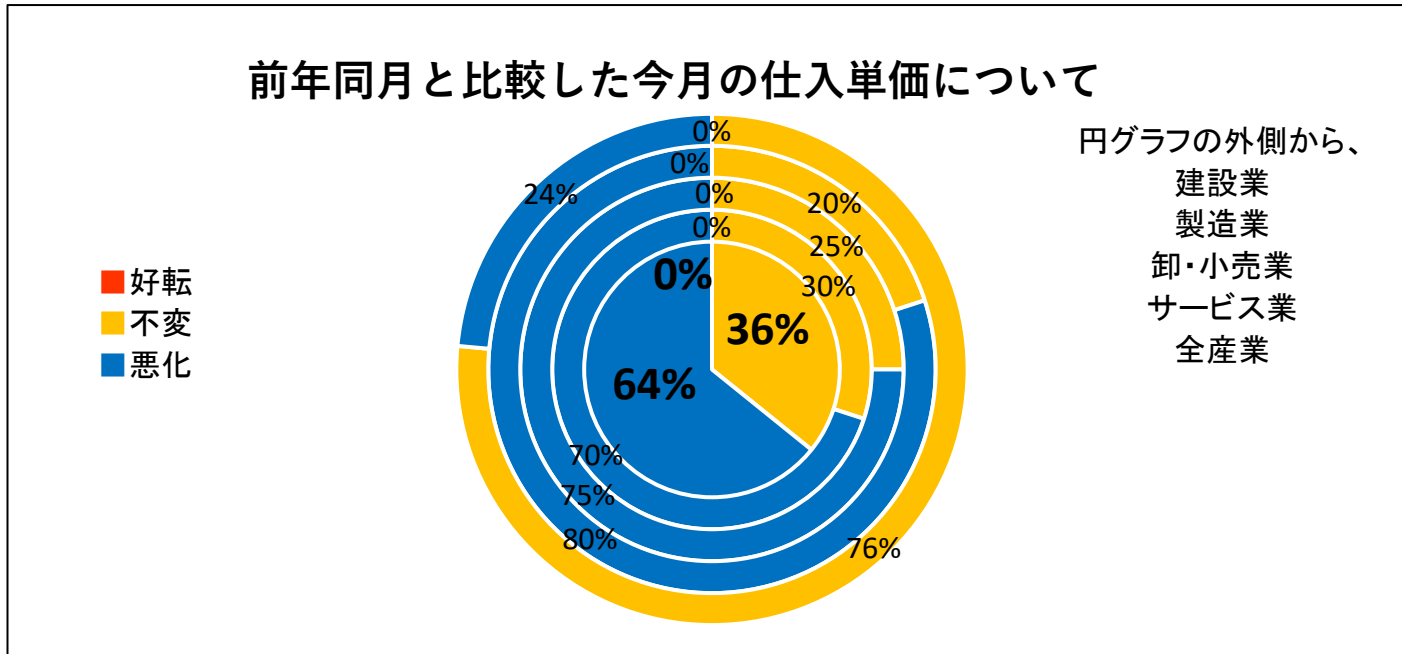
採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和5年					令和6年	先行き見通し
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2~4月 (1~3月)
全産業	▲13.6	▲13.6	▲9.7	▲16.0	▲18.9	▲23.4	▲3.7 (▲16.4)
建設	▲20.0	▲20.0	▲14.2	▲15.7	▲5.2	▲17.6	▲17.6 (▲21.0)
製造	▲23.8	▲23.8	±0.0	±0.0	▲43.7	▲50.0	▲30.0 (▲25.0)
卸・小売	▲20.0	▲20.0	▲23.3	▲34.6	▲22.7	▲8.3	△4.1 (▲27.2)
サービス	△8.3	△8.3	△5.0	▲5.2	▲9.0	▲20.0	△25.0 (△4.5)



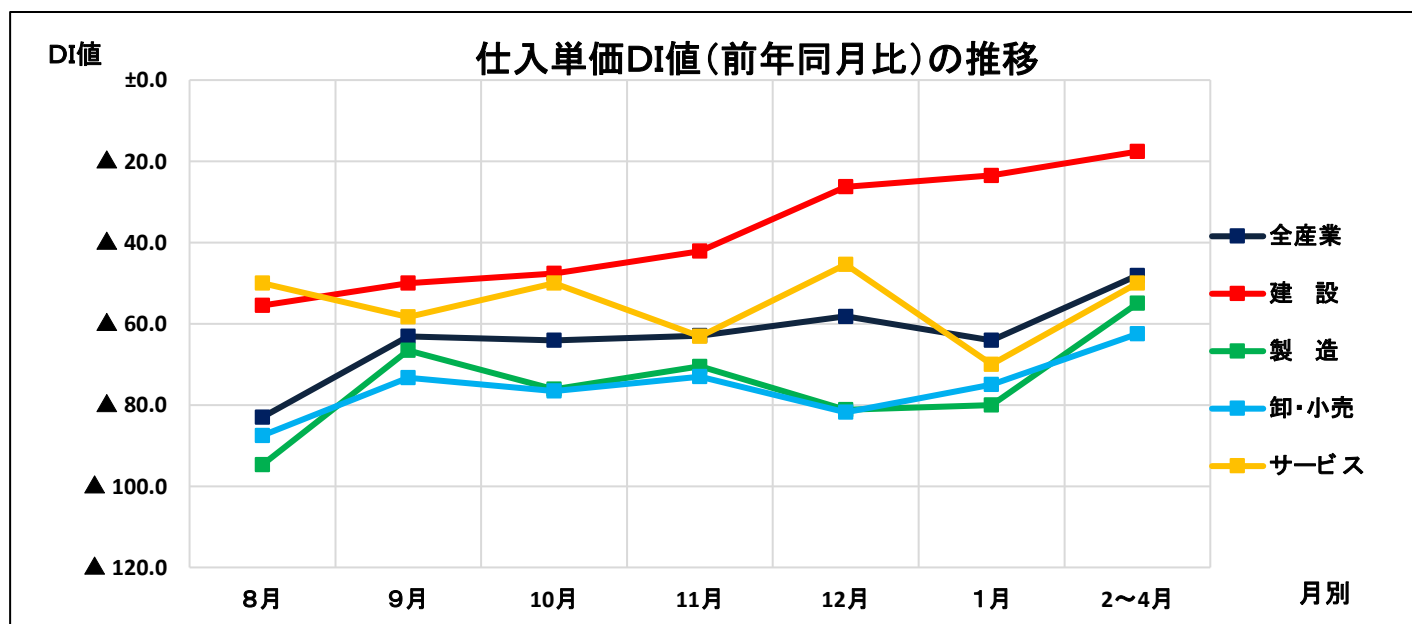
【仕入単価について】

- 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲64.1 (前月水準▲58.2) となり、マイナス幅が5.9ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲48.1 (前月水準 ▲48.1) となり、プラスマイナス0ポイントの見通しである。



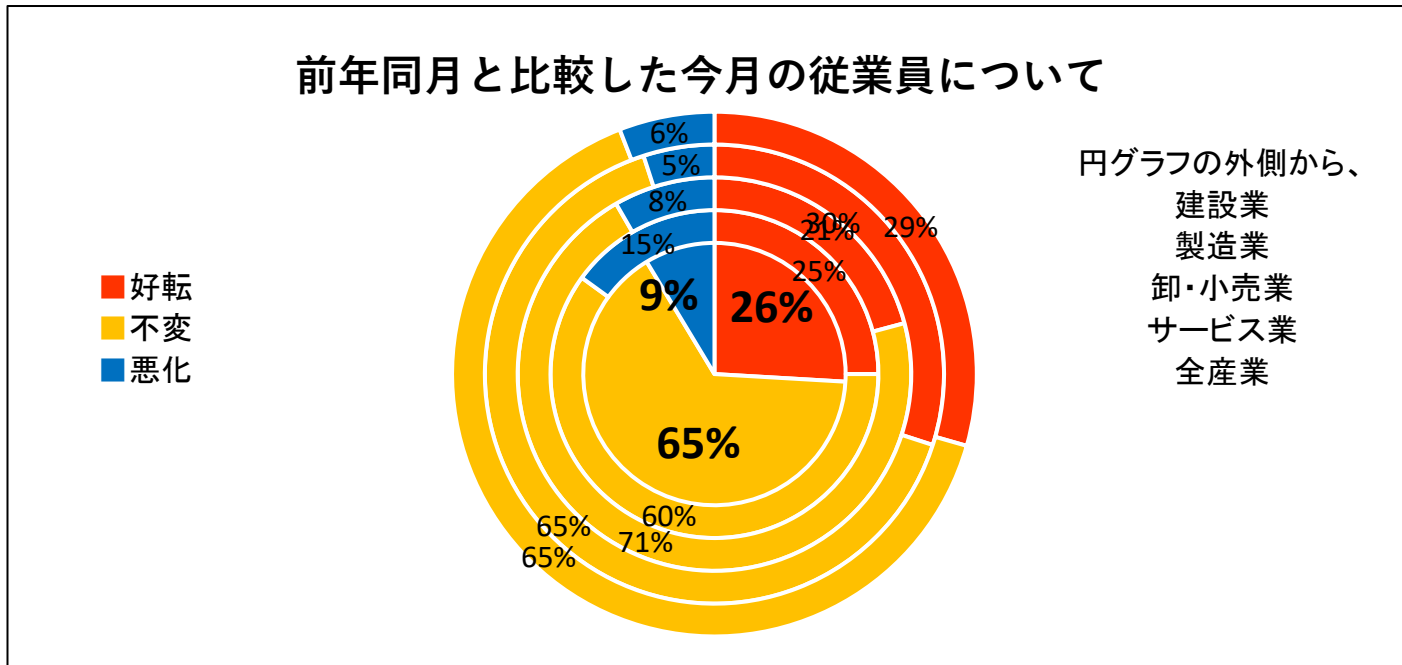
仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	令和5年					令和6年	先行き見通し
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2~4月 (1~3月)
全産業	▲83.0	▲63.1	▲64.1	▲62.9	▲58.2	▲64.1	▲48.1 (▲48.1)
建設	▲55.5	▲50.0	▲47.6	▲42.1	▲26.3	▲23.5	▲17.6 (▲31.5)
製造	▲94.7	▲66.6	▲76.1	▲70.5	▲81.2	▲80.0	▲55.0 (▲62.5)
卸・小売	▲87.5	▲73.3	▲76.6	▲73.0	▲81.8	▲75.0	▲62.5 (▲54.5)
サービス	▲50.0	▲58.3	▲50.0	▲63.1	▲45.4	▲70.0	▲50.0 (▲45.4)



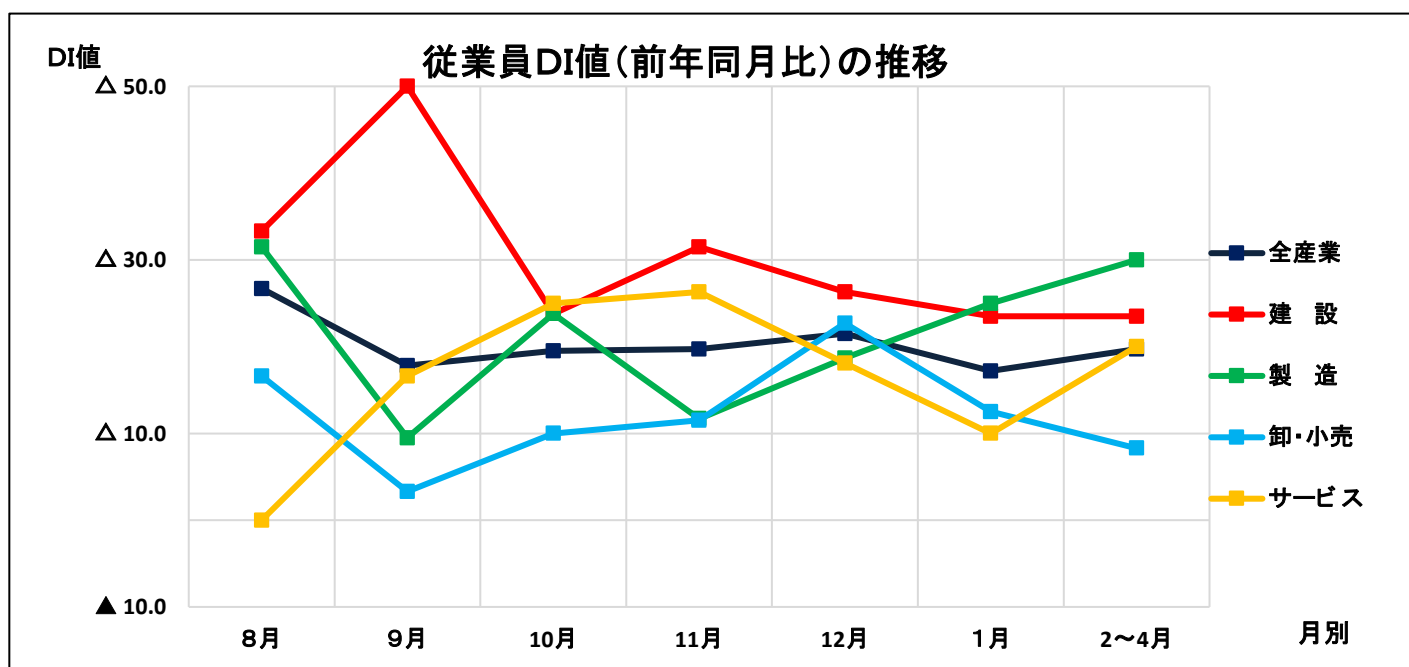
【従業員について】

- 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△17.2(前月水準△21.5)となり、プラス幅が4.3ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、△19.7(前月水準△21.5)となり、プラス幅が1.8ポイント縮小する見通しである。



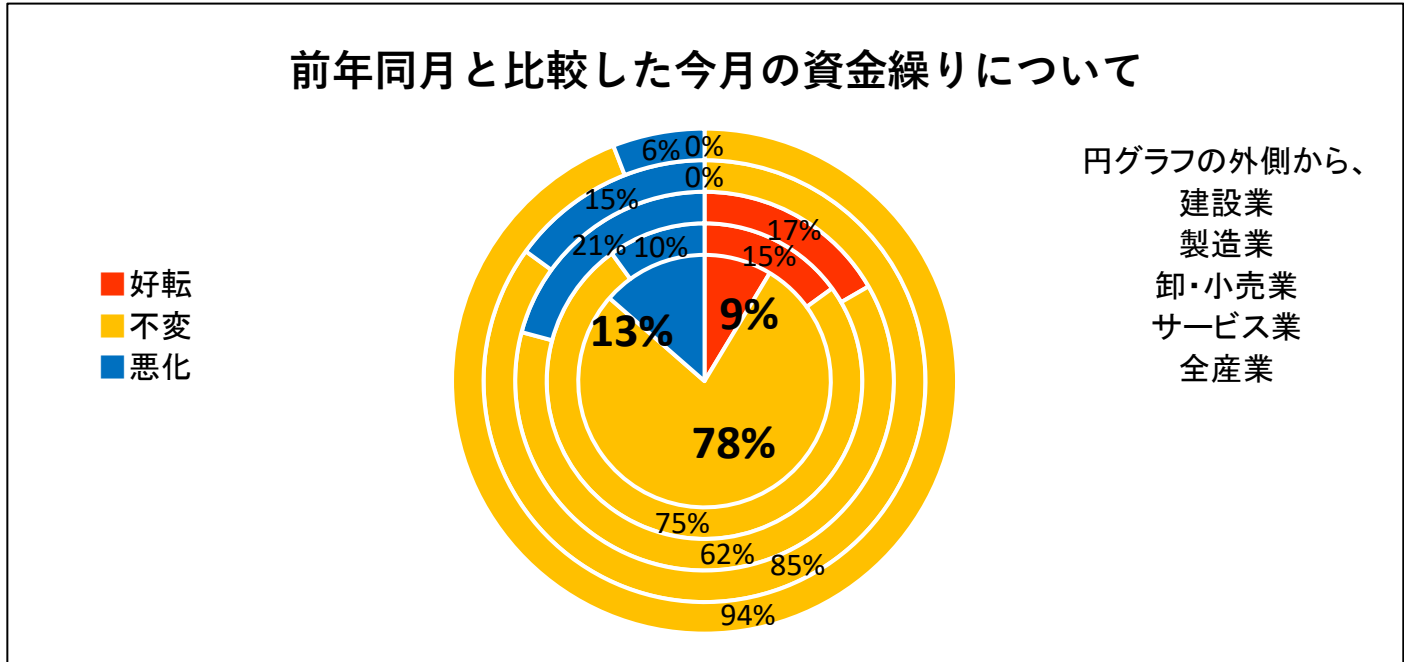
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和5年					令和6年	先行き見通し
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2~4月 (1~3月)
全産業	△26.7	△17.8	△19.5	△19.7	△21.5	△17.2	△19.7 (△21.5)
建設	△33.3	△50.0	△23.8	△31.5	△26.3	△23.5	△23.5 (△26.3)
製造	△31.5	△9.5	△23.8	△11.7	△18.7	△25.0	△30.0 (△18.7)
卸・小売	△16.6	△3.3	△10.0	△11.5	△22.7	△12.5	△8.3 (△22.7)
サービス	±0.0	△16.6	△25.0	△26.3	△18.1	△10.0	△20.0 (△18.1)



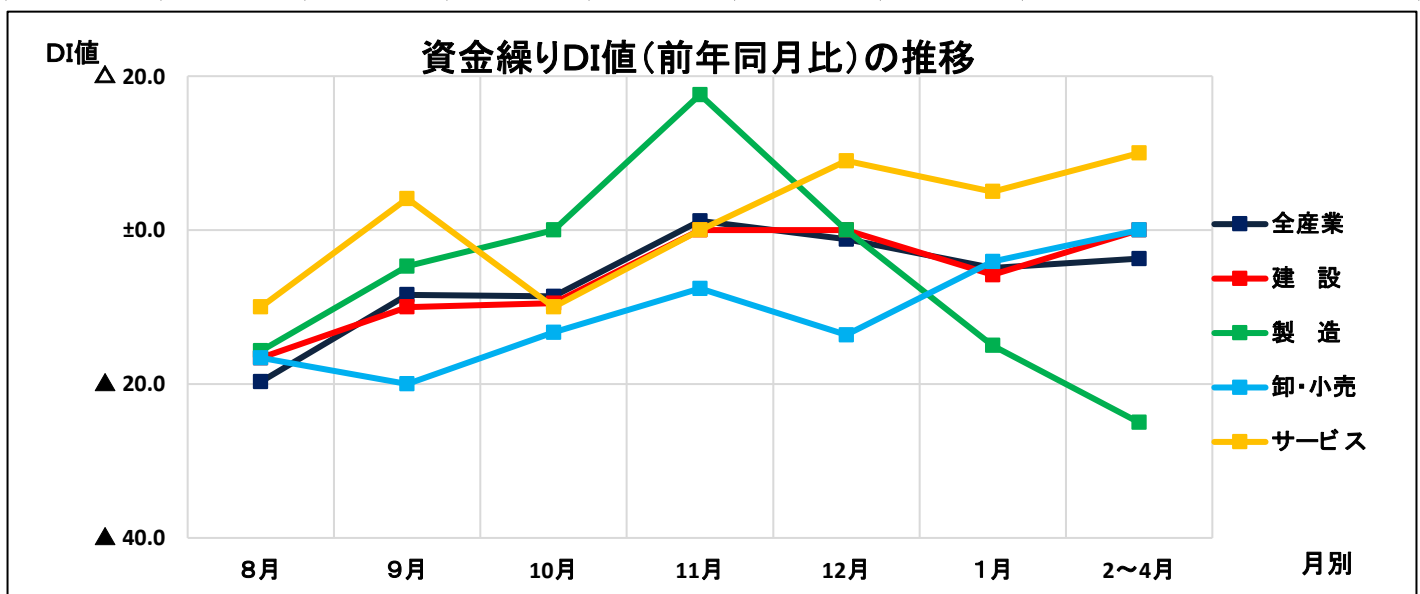
【資金繰りについて】

- 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲4.9(前月水準▲1.2)となり、マイナス幅が3.7ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲3.7(前月水準▲11.3)となり、マイナス幅が7.6ポイント縮小する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和5年						令和6年	先行き見通し
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2~4月 (1~3月)	
全産業	▲19.7	▲8.4	▲8.6	△1.2	▲1.2	▲4.9	▲3.7 (▲11.3)	
建設	▲16.6	▲10.0	▲9.5	±0.0	±0.0	▲5.8	±0.0 (▲10.5)	
製造	▲15.7	▲4.7	±0.0	△17.6	±0.0	▲15.0	▲25.0 (▲18.7)	
卸・小売	▲16.6	▲20.0	▲13.3	▲7.6	▲13.6	▲4.1	±0.0 (▲9.0)	
サービス	▲10.0	△4.1	▲10.0	±0.0	△9.0	△5.0	△10.0 (▲9.0)	

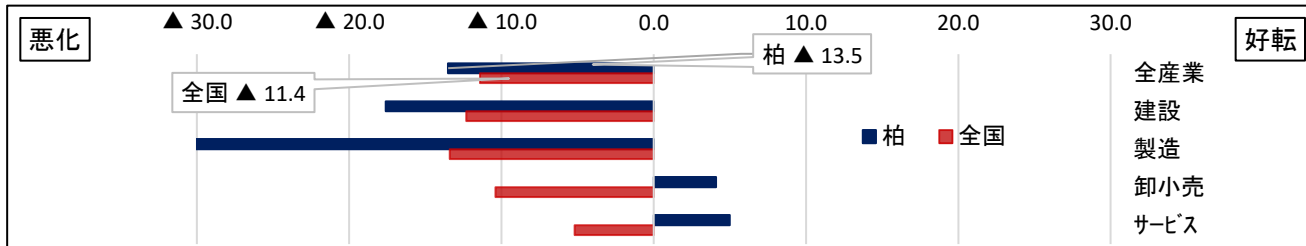


全国（CCI-LOBO）との比較

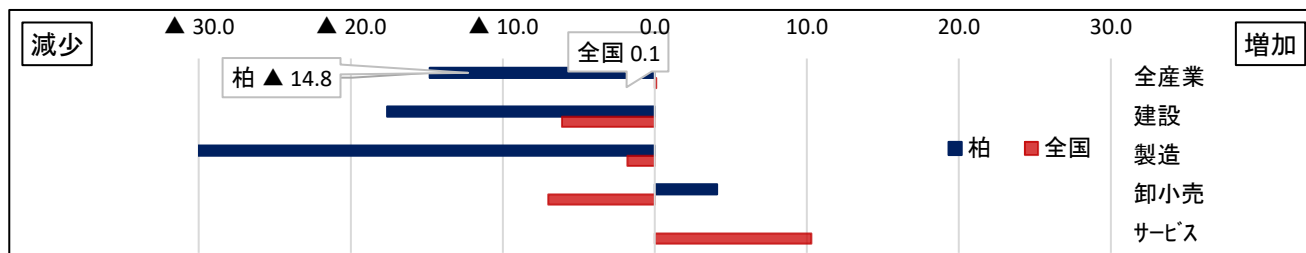
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

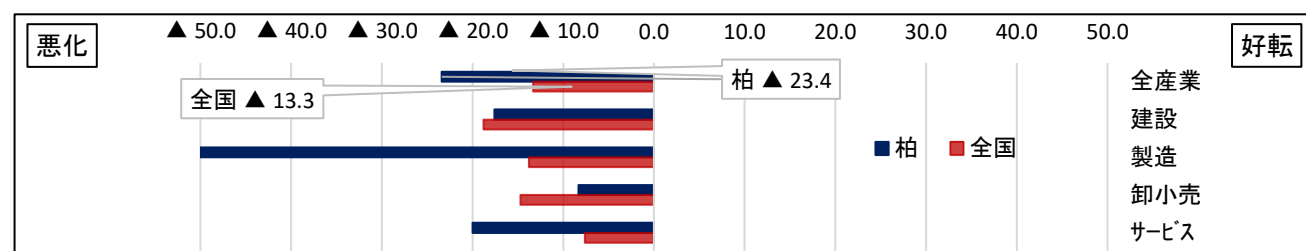
【業況D I】



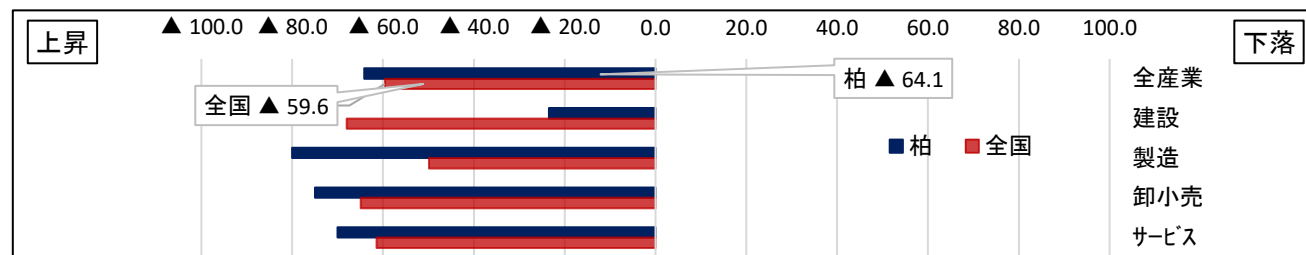
【売上D I】



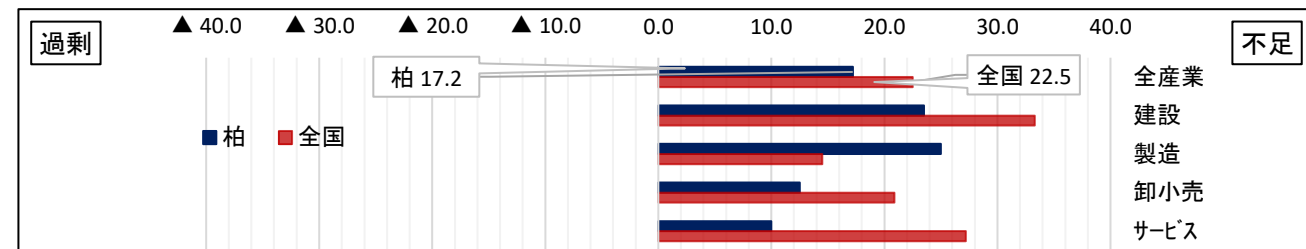
【採算D I】



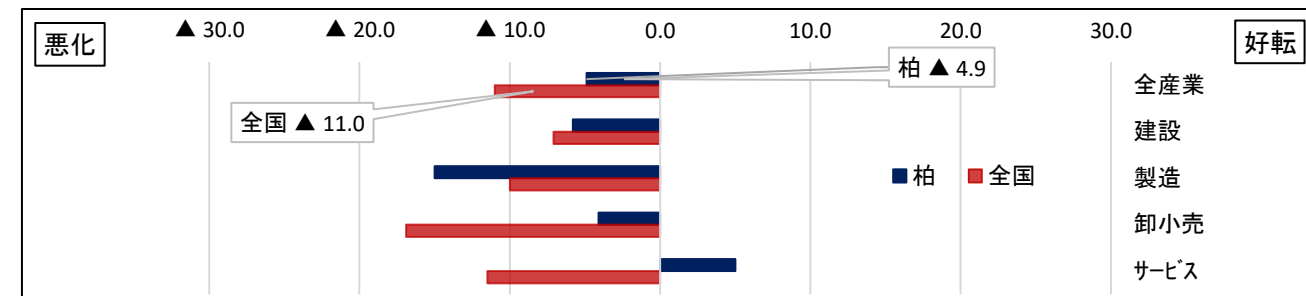
【仕入単価D I】



【従業員D I】



【資金繰りD I】



【業種別】 業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	職人不足は継続。それ以外にも全体的な人手不足で、営業活動が十分にできず収益が伸び悩んでいる。	電気工事業
	物価の上昇に加え、働き方改革に伴う人手不足が影響している	管工事業
	原材料高騰しているのに価格転嫁出来ていないので、業況が悪化。	畳工事請負・畳製造販売業
製造業	昨年同月期はコロナ後の影響で医療品容器の特需があったが、今年度は落ち着いてしまい売り上げは減少してしまった。	プラスチック加工
	これまでの取引が終了するものがあるがそれに代わる売上確保が難しい。既存の製品だけではなく新しい分野へ乗り出すための策が必要である。世代交代による技術承継も喫緊の課題である。	金属製品
	緊急措置が必要、このままだと厳しい	油脂加工造業
	仕入れ元の一次メーカーは、材料高騰を理由に一方向的な値上げを押し付けてくるが、その値上げ分は受け入れざるを得ない。片や加工納品先の大手製造メーカーは、材料費分の値上げは認めてもらえるが、それ以外のエネルギーコストや輸送料、人件費等の上昇分は認めない、これでは賃上げなど出来ない。大企業は、史上最高益などを出しているようだが、内部保留などの利益を一定量下請けメーカーにも還元してもらいたい。	その他の金属製品製造業
	製造量増加による新規採用も徐々に進んできている。4月に値上げがある為「仮需」が入ってきている。	酒類製造業
	原材料の値上げは続いているものの落ち着いてきている。為替も大きく振れていないので輸入品も安定して購入できている。インパウンドの影響で売り上げが伸びると期待しているが、現状は変化がみられない。	その他の機械・同部品製造業
	年度末に向けてユーザーの在庫調整で売り上げ減少で利益も減少 新年度からの売り上げ・利益増加に期待。ここ数ヶ月はコスト削減で企業内で努力	その他の鉄鋼業
半導体関連の受注は低迷、自動車関連は好調。中小企業は物価高や材料高止まりを背景に利益を圧迫。人材投資とDX投資を続新製品開発型の新規得意先開拓型平均単価を上げるチャンスだと考える。	金属素形材製品製造業	
卸・小	週末は来客数が多く喫茶店などは飽和状態のところもある。しかし客単価は低い。	その他の各種商品小売業
	小規模企業である弊社は、電子帳簿保存法の対応で本業に支障をきたしそうなほど体力がかなり奪われている。	包装資材機器卸
	値上げ自体は、ある程度受け入れられてきている印象。売上では昨年度を上回っているが、数量で考えると下回っており必要なものしか購入しないことが顕著に表れている。	呉服・服地小売業

【業種別】 業界内トピックス

売 業	年始は大型店に人が流出の傾向が見られた。地震の影響から防災用品が好調。節約志向は引き続いており、価格強調品への反応が顕著に見られる。	大型小売店
	3ヶ月後前後は自粛解除より1年となるので、当面は前年より悪化になると思う。値上げの対応に追いつけない。	その他の各種商品小売業
	『ハレの日』ニーズのレンタル衣料苦戦続くも、セール需要中心にアパレル回復傾向。食物販・サービス関連は好調継続。	百貨店
サ ー ビ ス 業	値上げによって客単価は上がっているが、必要経費も上がっている。客数は変わらないので好調と感じるよりも先行き不安の気持ち強い。	美容室
	暖冬と言われているが、やはり寒いことに変わらないので、寒いと出不精の人が多くて来客数が伸びない。	整体
	販売価格への度重なる転嫁が難しい中、最低賃金の引き上げと今春の賃上げにより利益が圧迫される また、修繕工事を毎年発注しているが、年々見積もり価格が上昇している。	ゴルフ練習場
	売上増も食材資材価格の上昇が続く	日本料理
	人件費、資材の高騰に伴い、様々なものが上がり、管理コストに圧迫感を感じる	不動産賃貸・管理業
	昨年10月より賃金の引き上げを実施したが、最近になってYOUTUBEの動画を見て、10月より前に賃金の引き上げを行っていた場合は補助金が出ることを知って愕然とした。国は小規模事業者を本気で支援する気など全く無いように思えて憤っている。こちらが情報弱者ゆえと言われればそれまでかもしれないが、中小企業が利用できる支援制度については、せめて商工会議所の会員にはもっと周知を徹底してほしい。	学習塾
	昨年の秋以降、一般の買い顧客からの問い合わせが減少している。建築費の高騰や人件費、材料費の価格上昇により、販売価格の値上げがお客様の財布のひもが厳しくなっている。今後の見通しもかなり厳しい状況と予測している。	不動産管理業
	1月はもともとシーズンオフのため、後半から春休みの旅行の申し込みが増えるものと期待している。また、海外旅行も徐々にではあるが復活の兆しが見えてきている。 能登半島の地震による、キャンセルもありましたが、北陸割の詳細が、どのようになるかにより中小の旅行会社は大いに影響される。	旅行
	駅周辺は人出が増えている印象で飲食店なども予約が必要なケースが出てきている。一方で、閉店する店舗もあり消費者の選別が厳しいと感じられる。	コンサルタント

調査要領

回答期間

令和6年1月25日 ~ 令和6年2月4日

調査対象

柏市内181事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	181	81	44.8%
建設	42	17	40.5%
製造	44	20	45.5%
卸・小売	48	24	50.0%
サービス	47	20	42.6%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 う3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				